

平成 21 年度事業の概要

福岡歯科学園理事長 田中健蔵

国・公・私立大学が生き残りをかける「大学淘汰の時代」にあって、本学園の使命である「口腔医療・保健・福祉分野の高度専門職業人の育成」のため、授業料収入や医療・介護事業収入のほかに補助金等の外部資金の導入に努め、効率的・効果的に教育研究活動を展開しました。以下、21 年度における主な事業状況について報告します。

○「口腔医学の学問体系の確立」について、昨年度に引き続き国公私立歯科大学・歯学部、歯科医師会・医師会等に理解と協力を得るための意見交換、文部科学省・厚生労働省への理解と支援要請、学会や学術シンポジウム等での講演等により社会に対するアピール等を行いました。

また、平成 20 年度に採択された文部科学省 G P（大学教育改革の「優れた取り組み」）「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」において、口腔医学カリキュラム「医歯学連携演習」を開発するとともに、新設したテレビ授業システムにより連携大学へ同時配信することとなりました。

○「第 103 回歯科医師国家試験」では、既卒者を含めた総合の合格率が 80.5%で 17 私立歯科大学中第 2 位となり、前回の 76%で第 5 位から大きく飛躍しました。短大の「第 19 回歯科衛生士国家試験」では、新卒者 75 名と既卒者 3 名の全員が合格しました。

○「教育水準の向上」について、大学では組織的 F D の計画的実施、歯科医師として必要な基盤（態度）教育の効果の検証に努めるとともに、学務委員会の下に「臨床実習小委員会」を新設し診療参加型臨床実習の充実策を検討しています。短大では歯科衛生学専攻科生 15 名が、大学評価・学位授与機構から「口腔保健学士」の学位を授与されました。

また、21 年度文部科学省 G P に、大学では「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」が採択されました。短大では「超高齢社会の就業力向上につながる医療・福祉系学生の就職支援」が採択されました。

○「学生募集」では、社会経済状況の悪化や 18 歳人口の減少、特に歯科医師の需給問題や福祉・介護の人材確保問題等により、志願者が急激に減少している中で、「歯科医療・社会福祉への貢献」という明確で強い目的意識を持った学生確保に向けて、学生募集事業全体の厳しい点検と見直しを行った結果、22 年度入学者は大学学部が 81 名（前年比 13 名減）、大学院が 16 名（前年比 9 名増）、短大歯科衛生学科は 93 名（前年比 19 名増）、保健福祉学科は 32 名（前年比 16 名増）となりました。

○「研究の活性化」では、昨年度に引き続き理事長と学長が専任教員等から各自の研究テーマ取り組み状況を提出させ、各所属長及び教授全員との面談を行うことにより、研究マインドの醸成・計画的な研究の実施等の指導充実を図っています。

また、「先端科学研究センター」においては、本学の多数の教員が本センターを利用し研究に取り組み、その成果発表会を開催するとともに、国内外から著名な研究者を招聘し国際シンポジウム等を開催し、最新の研究成果の発表や活発な討論が行われました。

○「医科歯科総合病院」では、福岡市西部地区の総合医療センターとして地域医療に貢献するとともに、教育病院として学生・研修医等の指導にあたっています。

外来患者総数は前年度より2.5%増となり、特に医科は9.2%の増となりましたが、1日当たり患者数は536人と目標の600人を下回りました。病院の患者増は学生に対する診療参加型臨床実習の充実の観点からも重要課題であり、より優秀な医師・歯科医師を招致するため、22年度から専任の教員・医員である医師・歯科医師に対して暫定診療手当を支給し、病院運営実績の一層の向上を図ることとしています。

また、医科歯科総合病院の新設に向け「病院将来構想検討委員会」を設置し、患者サービスの向上・学生指導の充実等、多方面からの期待と要望に応えられる検討を始めました。

○「介護老人保健施設サンシャインシティ」では、本学はもとより他大学の学生の介護実習の実施や地域の中・高生の職場体験やボランティア体験等の受け入れ等に努めています。

また、入所者稼働率は98%（前年比0.2%増）となっており、今後は通所サービスやデイサービス等の稼働率向上にも努めることとしています。また、介護・看護職員等の給与改善3カ年計画の最終年度として、一律4号俸の昇給を実施しました。

○「施設・設備の充実」では、本館・研究棟の耐震改修工事、エレベーターの制御機器等の更新、節水型自動洗浄便器・自動手洗い器設置等のトイレ改修工事、4階402実習室をマルチメディア対応実技教育実習室に整備、5階504教室にTV授業システム導入等の整備を行いました。なお、本事業に対し文部科学省から7億2千万円の助成を受けました。

○「財政の健全化」では、21年度事業の実施においても必要性・緊急性・費用対効果等を十分吟味した予算執行に努め、バランスの取れた収支を維持しており、特に資産運用においては安全かつ効率的な運用方針の下、当初予算を上回る運用益を計上することができ、引き続き安定した財政基盤を維持しています。

しかし、大学間競争の激化・競争的環境の急激な進展の中で、多くの優秀な学生を確保するために学生納付金を他の私立歯科大学並みに引き下げざるを得ないなど、本学の経営環境はこれまでに無く厳しさを増しています。理事会といたしましては、今後も事業収入増・資産運用収入の確保、競争的資金の獲得、退職金見直し等の役職員給与の適正化、学園情報システムの整備・充実等により、効率的な管理運営の推進に努めてまいります。

学校法人福岡歯科学園 平成21年度事業報告書

I 法人の概要

1 法人の目的

学校法人福岡歯科学園は、昭和48年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系確立と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」及び全国に先駆けて高齢者福祉のための「介護老人保健施設」を設置し、さらに、全国初となる「口腔保健学士」認定専攻科を有する「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

2 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況は表1のとおり。

表1 設置する学校等 (平成21年5月1日現在)

学校名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 北村憲司)	歯学部歯学科	昭和48年	6	120	720	608
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	33
福岡医療短期大学 (学長 栢豪洋)	歯科衛生学科	平成9年	3	80	240	233
	保健福祉学科	平成12年	2	40	100	40
	計			120	340	273
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	10	10	16

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用 平均(人)	年間利用 延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 松葉健一)	入所	平成14年	85	83.3	30,389
	通所	平成14年	20	16.5	4,808

3 出願者及び入学者等の状況は表2のとおり。

表2 出願者及び入学者等の状況

学校名	学部学科等名	平成21年度入学者				平成22年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	歯学部歯学科	191	169	146	94	166	158	148	81
	大学院歯学研究科	7	7	7	7	18	17	17	16
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	77	77	77	74	101	100	100	93
	保健福祉学科	16	16	16	16	49	48	34	32
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	16	16	16	16	10	10	10	10

4 教職員数は表3、表4のとおり。

表3 教 員 数 (平成21年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	計
大 学	31	20	28	57	136
短 大	8	10	2	3	23
老 健	1				1
合 計	40	30	30	60	160

表4 職 員 数 (平成21年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員	医療職員	介護職員等	医員	合計
大 学	45	9	6	21			2	83
短 大	4							4
病 院	8			4	84		52	148
老 健	1			2	16	39		58
合 計	58	9	6	27	100	39	54	293

5 役員・評議員・役職教職員は表5、表6、表7のとおり。(平成21年5月1日現在)

表5 理事・監事・顧問 16名

理 事 長	田 中 健 藏
常務理事	青 野 一 哉
常務理事	本 田 武 司
理 事	北 村 憲 司
理 事	栢 豪 洋
理 事	荒 川 規 矩 男
理 事	森 山 靖 章
理 事	宮 口 嚴
理 事	厚 谷 彰 雄
理 事	本 川 涉
理 事	田 代 英 雄
理 事	大 石 秀 雄
理 事	秋 山 治 夫
監 事	安 倍 徹
監 事	長 友 泰 明
顧 問	岩 崎 光 太 郎

表6 評議員 27名

評 議 員	田 中 健 藏
評 議 員	北 村 憲 司
評 議 員	栢 豪 洋
評 議 員	本 川 涉
評 議 員	厚 谷 彰 雄
評 議 員	香 月 俊 博
評 議 員	甲 斐 正 紀
評 議 員	本 山 久 美 子
評 議 員	青 野 一 哉
評 議 員	本 田 武 司
評 議 員	松 葉 健 一
評 議 員	中 山 宏 明
評 議 員	中 島 與 志 行
評 議 員	荒 川 規 矩 男
評 議 員	森 山 靖 章
評 議 員	田 代 英 雄
評 議 員	大 石 秀 雄
評 議 員	秋 山 治 夫
評 議 員	染 矢 廣 美
評 議 員	山 本 達 雄
評 議 員	横 倉 義 武
評 議 員	朔 啓 二 郎
評 議 員	前 原 喜 彦
評 議 員	宮 口 嚴
評 議 員	武 井 俊 哉
評 議 員	吉 田 公 典
評 議 員	高 橋 裕

表7 役職教職員

大 学 長	北 村 憲 司
短 大 学 長	栢 豪 洋
医科歯科総合病院長	本 川 涉
事務局長	厚 谷 彰 雄
学生部長	岡 部 幸 司
情報図書館長	谷 口 省 吾
口腔・歯学部門長	小 島 寛
全身管理・医歯学部門長	湯 浅 賢 治
社会医歯学部門長	埴 岡 隆
基礎医歯学部門長	谷 口 邦 久

II. 事業の概要

1 口腔医学の確立

今日の医歯学の進歩、社会医療環境の変化を踏まえ、さらに歯科医療の逼塞状態の改善等のためにも、「歯学（歯科）」から「口腔医学（口腔科）」に変更することが、口腔医学教育・口腔医療に対する社会の理解、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士など医療人の意識向上を図る上で適切であるとの考えに立って、平成 21 年度も引き続き田中理事長、本田常務理事、北村大学長他、役職教職員等が国公立歯科大学・歯学部及び歯科医師会等に理解と協力を得るために意見交換を行うとともに、文部科学省、厚生労働省を訪問して理解と支援を要請した。また、田中理事長等は日本口腔粘膜学会・日本口腔診断学会共催学術集会（平成 21 年 6 月）での特別講演（「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」）、日本口腔外科学会（平成 21 年 10 月）での講演（口腔医学の学問体系の確立と医歯二元論の再考）及び口腔医学シンポジウムの開催（平成 22 年 1 月・福岡）など、広く社会に対しアピールを行っている。この他、本学を代表校とする 8 大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、福岡歯科大学）で、文部科学省助成の戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」を実施し、医学・歯学一体教育による新しい医療人の育成及び教育体制の創設に共同して取り組んでいる。

2 歯科医師国家試験等の対策

- 1) 今年度も前年同様、「卒業試験小委員会」で卒業試験及び再試験問題のブラッシュアップを行った。また、卒業資格判定においても審査を厳格にし、学力が担保されていると保障できる者について卒業を認めた。その結果、今年度は 100 名が卒業を許可され第 103 回国家試験を受験し、84 名が合格した。合格率は 84%であり、前回の 88.9%に引き続き高合格率を維持した。また、既卒者を含めた総合の合格率は 80.5%で 17 私立歯科大学中第 2 位となり、76%であった前回の第 5 位から大幅に飛躍した。（全国平均合格率 69.5%）
- 2) 福岡医療短期大学歯科衛生学科は、歯科衛生士国家試験での 100%合格を目指して、平成 21 年度は 2 学年に対して国家試験の演習を 3 回、3 学年に対しては 15 回の演習を行うとともに、演習の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に補習を行うなど早期に対応を行った。その結果、第 19 回歯科衛生士国家試験では新卒 75 名、既卒 3 名、計 78 名全員が合格した。（合格率 97.2%）

3 教育の改善・充実等

1) 福岡歯科大学

(1) 教育方法の改善等

① 組織的 F D

F D 事業を 3 つの目的別（学生支援の充実、教員の資質向上、大学院及び研究の活性化）に実施した。また、今年度から、九州大学を幹事校として福岡市の 6 大学で構成する「九州地域大学教育改善 F D・S D ネットワーク（Q-LINKS）」に参画し、今後、共通 F D モデルの開発等を行う予定である。

② 「態度教育」の見直し

本学の特色あるカリキュラムである態度教育（主として第1学年を対象）の中で、低年次教育、少人数教育及び英語教育について、学務委員会において作業グループを設置し、検証した結果、英会話教育について、平成22年度から能力別に3グループに分け実施することやTOEICテストの評価も併用していくこととした。また、第1学年は新入生研修時に、第6学年は後期開始前にそれぞれ禅寺での座禅を実施した。

③ 口腔医学カリキュラム

文部科学省の平成20年度戦略的大学連携支援事業に採択された「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」において、18コマで構成される「医歯学連携演習」シラバスを開発した。この授業科目は毎回、医科と歯科が協同で授業を行うもので、担当する大学からテレビ授業システムにより、平成22年度から同時配信される。本学教員に加え鶴見大学、九州歯科大学及び福岡大学（医学部）の教員も講師として参加している。

④ 出欠確認の徹底

授業の出欠確認については、過去の事例を検証し、担当教員と学生相互で確認することを学期始めのオリエンテーション時に文書で説明するとともに、2週間ごとに掲示する欠席状況についても学生ホールに加え、各学年の教室にも掲示することとした。

その結果、平成21年度は、欠席過多により受験資格を失格する学生はなかった。

⑤ 臨床実習の充実

実習内容を充実させるため、学務委員会の下に「臨床実習小委員会」を新設し検討の結果、行動目標の設定、評価の平準化、診療参加型実習の充実等を策定し実施することとなった。

⑥ 学生支援推進プログラム

文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」（学生支援推進プログラム）に本学の「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」が採択された。事業内容は、歯科医師としての就業先情報を収集し、きめ細やかな情報を提供することである。今年度は臨床実習の一環として第5学年45名を16施設に派遣した。

(2) 入学者の選抜方法

平成22年度入試は、試験別の定員を見直し、AO入試と推薦入試の定員を増加し、早期に専願での入学者の確保を図った。その結果、AO入試では23名、推薦入試では7名、一般入試（A日程）では39名、センター試験利用入試では3名、一般入試（B日程）では2名が入学手続を終了したが募集定員の96名を満たさなかったため追加募集を2回実施した。その結果、一次、二次合わせて7名が入学手続きを行ったが、平成22年度の入学者数は最終的には81名となり、募集定員を15名下回った。

(3) 国際交流

① 平成21年4月に上海交通大学口腔医学院（中国）の沈剛教授ら教員3名と・学生5名が本学を訪れ、同教授による講演や医科歯科総合病院の見学等を行った。本学からは翌年3月に松浦正朗教授ら教員2名と学生6名が上海交通大学口腔医学院を訪問し、同大学の熱烈歓迎の中、教育・研究・臨床における共同事業の検討等を行った。

② 独立行政法人国際協力機構（JICA）の研修コース「口腔健康科学教育」（研修実施委託先：九州大学大学院歯学研究院）の研修員8人（出身国：チリ、ホンジュラス等）が

サンシャインシティ、サンシャインプラザの施設見学、歯科治療のシミュレーション実習や口臭測定実習を7月24日、30日、31日の三日間、本学で行った。

③ 10月に廣藤卓雄教授ら教員2名と大学院生3名が、韓国・慶熙大学を訪問し、各診療科での研修等を行った。翌年1月には慶熙大学・申濟元教授ら教員2名と学生5名が本学を訪問し、特別講義や各診療科における研修等を実施し、2回目となる両大学間の教員・学生間の相互交流を行った。

④ 大学院生1名（中国）を私費外国人留学生として受け入れ、授業料を「私費外国人留学生授業料減免規則」に基づき減免（30万円）した。

⑤ 平成21年9月にアメリカの南カリフォルニア大学および平成22年2月にカナダのブリティッシュコロンビア大学（UBC）歯学部と教員・学生の交流、研究協力、教育・研究面での情報交換及び国際会議等の案内等を目的とした提携協定を締結した。

(4) 統合型実技教育実習室の整備

臨床基礎実習を充実させるため、本館4階402実習室を統合型実技教育実習室に改修して、マルチメディア対応のコンピュータ一体型実習機及びサーバを整備するとともに、e-learningシステムを導入して学生が自分の進度に合わせて自学自習しながら実習を進めることを出来る学習環境を実現した。

2) 福岡医療短期大学

(1) 専攻科「口腔保健衛生学専攻」

平成21年度より専攻名を「口腔保健衛生学専攻」に変更し、15名の専攻科生が「学士（口腔保健学）」を取得した。

(2) 入学定員の確保

保健福祉学科においては、高校訪問のエリア担当者を定め、効果的な高校訪問活動を実施するとともに、社会人の志望者に対応するため、福岡県職業訓練制度や福岡市緊急雇用対策制度を利用した志望学生を積極的に受け入れ32名の入学生を確保した（前年度比16名増）。また、平成23年度保健福祉学科の社会人入学生等の学生納付金減免制度を決定した。歯科衛生学科においても効率的な学生募集活動を実施し、93名（前年度比19名増）の入学生を確保した。

(3) 教育方法の改善等

① 実習重視型教育、「特色ある教育」カリキュラムの実施及び施設・設備の改善

歯科衛生学科は、併設の介護施設サンシャインシティ並びにサンシャインプラザにおいて口腔介護臨地実習を、保健福祉学科は、両施設において介護実習を継続して実施し、両学科において口腔ケア相互学習を実施した。

② 学生の授業評価

講義を担当した教員全員（非常勤講師を含む）について、学生対象の当該授業評価アンケートを前・後期の授業終了後に実施し、その集計結果を、レーダーチャートの形式で担当教員にフィードバックし、次年度以降の当該担当科目等の改善と教育改革の資料として活用した。

③ 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

両学科においては、成績不振学生に対する補習授業を実施するとともに、学年担任と助言教員による父兄面談及び学生指導を行った。

④ 資格取得支援教育

歯科衛生学科 2 学年 75 名全員が、訪問介護員（ホームヘルパー）2 級を平成 22 年 5 月に資格取得予定である。

保健福祉学科は、卒業生全員（24 名）が介護福祉士資格及び社会福祉主事任用資格を取得し、21 名がレクリエーション・インストラクター資格を取得した。

(4) 国際交流

平成 21 年 5 月 14 日に東釜山大学（平成 16 年 12 月姉妹校協定締結）歯衛生科の学生等 40 名が来学し、学生間での交流を実施した。また、9 月には歯科衛生学科の 3 学年が学生相互の交流のために東釜山大学を訪問する予定であったが、世界的な新型インフルエンザ流行のため、今年度は中止することとなった。

(5) 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」（文部科学省）に採択

標記プログラムに本学の『介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上支援をスキルアップする実践教育』が採択された（委託期間は平成 20 年 9 月 1 日から 22 年度まで）。平成 21 年 5 月より平成 22 年 1 月にかけて、“口腔介護と口腔機能向上支援”の修得をはかる教育プログラム（口腔機能向上スキルアップ講座）を開講し、全課程を修了した 47 名に対して、修了証ならびに単位認定証を授与した。

(6) 「大学教育・学生支援推進事業（就職支援推進プログラム）」（文部科学省）に採択

標記プログラムに本学の『超高齢社会の就業力向上につなげる医療・福祉系学生の就職支援』が採択された（事業期間は平成 22 年 2 月 15 日から平成 22 年度まで。補助金額は、平成 22 年度までの 2 年間で約 1,100 万円）。事業の内容は、①就職相談専門員 2 名による就職支援、②外部の有識者や卒業生アドバイザーを招き、セミナー、ガイダンス、評価委員会の開催である。

4 研究の活性化等

(1) 福岡歯科大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員及び医員等を対象に、3 ヶ月ごとに研究（研修）テーマの取組み進捗状況をまとめ所属長を経て理事長に提出、理事長はこの報告書をもとに学長とともに各所属長と面談を行い、若手教員の育成、計画的な研究の実施等の指導を行っている。

(2) 大学院の活性化等

課程修了は、第 4 学年 6 名と第 3 学年 1 名の計 7 名であり、3 年での早期修了は本学では初めてであった。また、平成 22 年 3 月には平成 19 年 3 月以来の論文博士 1 名を認定した。今年度から、九州大学大学院歯学研究科・鶴見大学との間で、学生の研究指導に係る協定を締結し研究領域等の拡大を図った。この他、奨学生制度において、一般奨学生 10 名、特別奨学生 12 名、リサーチアシスタント 7 名、ティーチングアシスタント 18 名を選考した。

(3) 先端科学研究センター

本学の研究プロジェクト「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレス」は文部科学省の戦略的研究基盤助成事業に採択され、先端科学研究センターはその研究活動の中心となっている。センターの研究室には多くの研究用機器が設置され、本学の多数の研究者がそれぞれの研究に取り組んでいる。平成 20～21 年度にわたって 18 課題（別表 1）の公

募研究が行われ、その成果発表会が平成 22 年 3 月 24 日に行われた。

研究活動をさらに活発にするために、本年度は 2 つのシンポジウムを開催した。1 つは「老化の制御機構を探る」シンポジウムで、平成 21 年 11 月 30 日に行われた。ここでは本学の関口睦夫教授（先端科学研究センター）、大星博明教授（内科学）、高木康光准教授（先端科学研究センター）に加え、共同研究を行っている中国衛生部・北京老年医学研究所の蔡剣平教授がそれぞれの研究結果を発表した。さらに折茂肇 健康科学大学学長（東大名誉教授）による「予防老年病学（Preventive gerontology）－個体レベルでの全人的老化研究の重要性」と題する特別講演が行われた。もう 1 つは「Genomic Stability under Environmental Stress」と題する国際シンポジウムで、平成 21 年 12 月 7 日に行われた。ここでは本学の早川浩教授（化学）、日高真純教授（生物学）、瀬戸山大樹博士（先端科学研究センター）、熊本大学の有森貴夫博士（薬学）がそれぞれ最新の研究結果を発表し、それに R. Fuchs 博士（フランス・マルセイユ大学）、B. Demple 博士（米国・ニューヨーク大学）、M. Takahashi 博士（フランス・ナント大学）の発表も加わって、活発な討論が行われた。

（4）アニマルセンター

平成 21 年度の利用者講習会には、更新者（4 年毎）25 名、新規登録者 17 名が受講した。また、実験申請件数は 30 件の申請があった。

総使用動物は前年を大幅に上回り、SPF 室の利用も拡大した。新たに動物の苦痛の軽減に大きく資するガス麻酔システムが導入される等、3R の原則（Refinement（苦痛の排除）、Replacement（代替手段の模索）ならびに Reduction（使用数の制限）からなる動物実験の倫理的原則）が利用者全体に浸透し、遵守された上で、実験動物を利用した研究活動が活性化しつつある。

アニマルセンターにおける利用実績の情報公開は従前どおり実施されている。また、人類の生活環境にも影響を与えうる化学物質の使用を厳しく管理する“有害物質使用届”も教授会の承認を経て、新規に整備された。

（5）教育研究経費の重点配分等

- ① 福岡歯科大学は、教育研究経費のうち、88,408 千円を学長重点配分経費、学術振興基金事業経費として配分したほか、平成 20 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として文部科学省から選定を受けた研究を実施する先端科学研究センターに研究経費 40,000 千円、また、病院長重点配分経費として 10,000 千円を重点配分した。
- ② 福岡医療短期大学では、学内プロジェクト研究のテーマに沿って学科の枠を超え、教員相互で共同研究を実施しており、教育研究経費のうち、4,000 千円（各学科 2,000 千円）を共同研究費として重点配分した。

（6）科研費等の外部資金の導入及び共同研究等の推進

① 科研費獲得等

平成 21 年度科学研究費補助金の獲得状況は、別表 2(大学)、別表 3(短大)のとおり。

7 月及び 9 月に科学研究費補助金の申請予定者を対象に、同補助金の獲得を目指し、申請のポイント等に関する説明会を実施した。また、10 月に平成 20 年度交付の科学研究費補助金を対象に本学園監事による内部監査を初めて実施した。

② 私学助成金、奨学寄附金等

私立大学等経常費補助金特別補助に申請のうち、福岡歯科大学は、大学院の基盤整備・拠点重点化支援として研究科分9件（16,188千円）及び同学生分32件（7,668千円）並びに教育・学習方法等改善支援として4件（8,605千円）の助成を受けた。

その他、福岡歯科大学は、研究設備整備費補助金として3,885千円（オールセラミック審美歯冠修復システム）、大学改革推進等補助金として28,226千円〔戦略的大学連携支援事業17,226千円、大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）11,000千円〕及び私立大学戦略的研究基盤形成支援事業補助金として17,040千円の助成を受けた。また、福岡医療短期大学は、大学改革推進等補助金として1,736千円〔大学教育・学生支援推進事業（就職支援推進プログラム）〕の助成、社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業として10,866千円の助成及び福岡県福祉介護人材確保臨時対策事業に対して5,725千円の助成を受けた。

奨学寄付金等に関しては、福岡歯科大学で奨学寄附金として18件（7,044千円）、受託研究として6件（14,128千円）を受け、福岡医療短期大学は受託研究として1件（2,000千円）を受け入れた。

③ 共同研究、産学連携の推進等

福岡歯科大学は、企業や他大学等との共同研究1件、独立行政法人科学技術振興機構等から6件の研究を受託した。また、福島忠男准教授らが（株）マルハニチロ食品と「DNA／キトサン複合体の形成方法」に関する特許を取得した。福岡医療短期大学も独立行政法人科学技術振興機構から1件の研究を受託した。

(7) 研究業績、海外研修派遣等

① 福岡歯科大学専任教員の平成21年度の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は130編、うち欧文は43編（別表4）であった。また、研究の国際化を進展させるため、延べ61名を海外研修派遣（別表5）した。

② 福岡医療短期大学専任教員の平成21年度の総論文数（著書、総説、原著論文等）は21編、うち欧文は2編（別表4）であった。また、研究の国際化を進展させるため、2名を海外研修派遣（別表5）した。

5 医療（医科歯科総合病院）

(1) 患者数等

医科歯科総合病院の外来患者・入院患者総数等は表8のとおり。

表8 外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)		入院患者総数(人)	
	21年度	対前年比	21年度	対前年比
医 科	26,845	9.2%増	6,123	2.0%増
歯 科	116,353	1.0%増	4,085	15.2%減
合 計	143,198	2.5%増	10,208	5.7%減
1日当り	536.3	2.8%増	28.0	5.4%減
平均在院日数	—	—	13日	—
病床稼働率	—	—	55.9%	3.4%減

(2) 診療責任体制、情報公開

診療の責任体制確立のため、新患の診察は教授が担当している。また、平成 21 年度は診療録等の開示要求が 19 件あり、個人情報保護管理委員会で審議した結果、全件開示した。

(3) 診療参加型臨床実習

卒前の臨床実習では従来からの一口腔単位の治療に加え、充填処置、歯内治療、抜歯などひとつひとつの基本的な歯科治療の達成度を到達シートに記入することにより、学生の診療参加と教員の積極的な指導が促された。

病棟における医科実習も、今年度から文書による同意のもとに入院患者の診療についての実習を行うこととし、医系教員が医科実習の充実に積極的に取り組んだ。

(4) 歯科医師臨床研修

必修化から 4 年目となる平成 21 年度歯科医師臨床研修は、61 名（複合型研修プログラム 50 名、単独型研修プログラム 11 名）が研修を行い、平成 22 年 3 月 31 日には全員に修了証が授与された。

(5) クリティカルパスの導入

平成 21 年度は新たに口蓋扁桃摘出術についてのクリティカルパスを導入した。

6 介護老人保健施設サンシャインシティ

開設して 8 年目を迎え(平成 14 年 8 月開設)、施設の年度目標として「誠心誠意」～笑顔で挨拶～というスローガンを掲げて、利用者には選ばれる魅力ある施設を目指し、笑顔・優しさ・思いやりを持って勤めた。

また、教育施設として福岡歯科大学及び福岡医療短期大学はもとより近隣の福岡大学の医学部及び看護学科の実習施設として学生の受け入れ等により、延べ 1,526 名を対象に福祉実習、登院前実習、ヘルパー2 級資格実習、口腔介護実習等を実施するとともに、地域に密着した中・高校生の職場体験やボランティア体験等の受け入れも実施した。

平成 21 年度の施設利用者数等は表 9 のとおり。

表 9 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1 日当たり平均(人)
入所者(85 人)	30,389	98.0	0.2%増	83.3
通所(20 人)	4,808	82.5	5.0%増	16.5

介護職員等の処遇改善のため、介護老人保健施設の介護職員、看護職員等の俸給を平成 19・20 年度に続き、21 年度も一律 4 号俸昇給し、他施設に先駆け関係職員の処遇改善を行った。

7 大学連携事業

- ① 文部科学省・戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」において「医歯学連携演習」シラバスを開発するとともに、平成 22 年度から TV 配信授業を実施するための環境整備として TV 授業システムを導入したほか、F

D・SD研修会、海外の大学視察（北米・ヨーロッパ・中国）とその報告会及び口腔医学シンポジウムを開催した。

- ②「4大学歯学部交流会」（北海道医療大学、岩手医科大学及び昭和大学の各歯学部、福岡歯科大学）においては、第7回の交流会を平成21年12月14日に本学が当番校として開催し、「臨床実習の状況と充実に向けての取組みについて—特に診療参加型実習と医学系実習について—」をテーマとして討議、情報交換を行った。
- ③「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、共通講義（福岡歯科大学で実施）を開講するとともに平成22年3月には五大学間の単位互換に関する覚書を締結した。また、職員研修を実施したほか、平成22年3月に五大学連携公開シンポジウムを開催して、各大学の地域貢献に関する取り組み状況についての発表や意見交換等を行った。
- ④「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」（中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、平成21年度に初めて3大学間で大学院学位審査委員を委嘱して審査を実施した。また、平成22年3月には3大学主催の「第1回ふくおか教育フォーラム」を開催した。
- ⑤平成21年6月に設立された「大学ネットワークふくおか」（本学を含む福岡都市圏21大学と福岡市、福岡商工会議所）においては、ホームページ開設をはじめ、学生共同イベントや学生と行政等との対話事業等について協議を行った。
- ⑥九州地域で初めてとなる「九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク（Q-Links）」（発足当初の参画大学：九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡女子大学、福岡歯科大学）を平成21年10月に発足させた

8 社会貢献の拡充

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設を設置しているという特色を生かし、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献（別表6）、公開講座等（別表7）を展開した。

9 管理運営の改善等

（1）自己点検評価、第三者評価

福岡歯科大学は、自己点検・評価委員会において2年毎に作成している「福岡歯科大学の現状と課題」の発刊準備及び自己点検・評価項目の改善を継続させるため、20年度における各評価項目の改善実績をとりまとめた。

（2）理事、評議員、大学長、役職教員の改選等

- ①平成21年4月1日付けで病院長（評議員）に就任する本川渉教授を2号理事に選任した。また、森山靖章理事・評議員が平成21年12月31日付けで辞任された。この他、甲斐正紀評議員は平成21年5月15日付けで辞任し、後任に第416回理事会（平成21年6月開催）で石橋慶憲・財務課長を選任した。
- ②平成22年4月1日付けで病院長に松浦正朗教授、情報図書館長に中島與志行教授を選任した。
- ③平成22年4月1日付けで歯科衛生学科長に升井一朗教授を選任した。

(3) 人事考課制度の確立と人材育成

① 人事考課マニュアルの改正

福岡歯科大学及び福岡医療短期大学教員の研究活性化意欲をより高め、科学研究費補助金について難度の高い研究種目への申請を促すため、平成21年11月に教員の人事考課マニュアルを改正した。

② 任期制教員の再任

「学校法人福岡歯科学園教員の任期に関する規程」に基づき任期満了となる教員（大学・教授15名、准教授11名、講師10名、助教7名、短大・教授4名、准教授6名）の再任審議を教員評価委員会が行い、再任申請者全員を再任することとした。

③ 人材育成

ア、福岡歯科大学では、FD関連事業として、メンタルヘルス講演会、アカデミックハラスメント講演会・ワークショップ、多肢選択問題作成ワークショップ、新規採用教員教育研修会等を開催した。

イ、福岡医療短期大学では、全教員が講師を担当するFD講演会（教育方法の工夫、口腔介護教育、研究に関する報告等）を毎月1回実施した。また、研究活動の推進のために、短大合同抄読会を継続している。

ウ、事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進した。**(別表 8)** 学内では、5月に新採用職員研修（6名参加）を、7月に主任・係長研修（26名参加）を実施した。この他、病院職員を対象として、医療安全に関する講習会や病院情報システム（HIS）運用円滑化のための操作説明会等**(別表 9)**を実施した。

また、戦略的大学連携支援事業の一環として、7月にSD研修を本学において開催した。11月には神奈川歯科大学において開催されたSD研修に本学から3名参加し**(別表 10)**、基調講演やグループディスカッションを通じて口腔医学の浸透を図った。

その他、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ファシリテーション基礎研修」等に事務職員等14名が参加した。**(別表 11)**

(4) 国家公務員準拠の給与改定等

① 国家公務員に準拠する調整手当率の引き上げ（9割を10割に）及び介護老人保健施設の介護職員、看護職員等の処遇改善（4号俸アップ）を4月から実施した。

② 定年後の継続雇用制度導入に係る「学校法人福岡歯科学園定年再雇用規程」に基づき3名（事務職1名、技術職1名、技能職1名）を再雇用した。

(5) セクシュアル・ハラスメント対策

セクシュアル・ハラスメント相談員のレベルアップを図るため5月、8月、9月及び平成22年3月にハラスメントに係る外部研修に派遣した。同年3月にはFD研修の一環として広島大学・ハラスメント相談室の横山美栄子教授を招き、ロールプレイ等相談員の研修を行った。

10 情報化の整備・充実

1) 魅力あるホームページの作成

学園ホームページについては、内容充実及び各部門のホームページに統一感を持たせ、平成21年4月1日から各部門のトップページを改訂した。特に志願者確保が緊急課題である

ことから、平成 21 年 7 月 17 日から福岡歯科大学及び福岡医療短期大学のトップページ並びに受験者向けページについて改訂した。

2) 社会からの理解・信頼を得るための積極的な学内情報の発信

学園の活動状況については、広報誌「NEW SOPHIA」やホームページを通して適時公開しており、大学としての説明責任を果たすとともに広く社会に開かれた大学を目指している。なお、ホームページは毎月開催されるホームページ作業部会で全委員によるチェックを行っており、最新の情報が発信できるよう努めている。

3) 戦略的大学連携支援事業によるカリキュラム改変のためのTV授業システムの導入

平成 21 年度は同事業の 2 年目として、口腔医学教育の学問体系の確立のため歯学部・医学部における口腔医学教育カリキュラムを作成するとともに、共同授業実施に向けた多地点遠隔授業システム（テレビ授業システム）を平成 21 年 8 月に導入した。

4) 病院情報システムの充実

病院情報システム（HIS）は既に稼働から 2 年が経過し、現在も順調に運用されており、HIS 作業部会により新規採用教職員等に対する HIS 操作の教育やシステムの管理運営が行われている。

5) 事務処理の合理化・効率化のため、事務システムの見直し

① 平成 20 年度に更新した会計システム、給与システム、学籍・教務情報システム等の新事務システムを平成 21 年 4 月から順次本格的に稼働させ、財務・総務・学務業務の効率化を図った。

② 学園の事務情報化を推進するため、第 433 回常任役員会（平成 21 年 6 月開催）において、事務局長の下に「事務情報化プロジェクト」を組織し、事務の総合的な情報化を進めることとなった。

本プロジェクトは、事務局各課の要望・意向等の事前調査を実施し、この調査結果を参考に「事務情報化プロジェクト」において 8 回にわたり検討した結果、今後 3 ヶ年で実現することを目標とした「事務（業務）改善・事務情報化推進 3 ヶ年計画」を策定した。この計画は、既に平成 21 年 12 月から実施している。

11 キャンパスの整備・充実

(1) 災害対策

地震等の災害に対応できるよう①本館耐震改修工事②研究棟耐震改修工事③本館及び研究棟エレベーター（5 基）の制御機器等を更新④本館誘導灯取替工事及び本館非常灯一部取替工事を竣工した。なお、①②の工事に関して、文部科学省から私立学校施設整備費補助金（防災機能等強化緊急特別推進事業）509,711 千円の助成を受けた。

(2) 施設の整備充実

① 本館・研究棟のトイレ改修工事を行い、節水型自動洗浄便器、自動水栓手洗い器を設置した。この工事に私立学校施設整備費補助金 65,882 千円の助成を受けた。

② 福岡歯科大学の臨床基礎実習を行う本館 4 階 402 実習室を、マルチメディア対応のコンピュータ一体型実習机及びサーバを設置し、e-learning システムを導入した統合型実技教育実習室に改修し、併せて鑄造・重合室、示説室の改修を行った。この工事に関して、私立学校施設整備費補助金 141,381 千円の助成を受けた。

- ③ 福岡医療短期大学については、パソコン教室の空調設備を更新した。
- ④ 医科歯科総合病院では平成 22 年 4 月の眼科開設を目指し、眼科診療室の新設工事を行った。

(3) 設備の整備充実

- ① 中央技工室及び大診療室に「オールセラミック審美歯冠修復システム」を整備した。
- ② 本館 4 階の鑄造・重合室に設置する真空攪器、トリマーなど技工実習機器を整備した。これらの設備に関して研究設備整備費補助金 8,158 千円の助成を受けた。
- ③ 本館 5 階 504 教室に戦略的・大学連携支援事業推進のため連携大学間の TV 配信を行う TV 授業システムを整備し 17,226 千円の助成を受けた。

12 財政の健全化

(1) 資産運用による収入確保及び経費節減

特定資産等の運用については、世界的な金融経済危機の長期化懸念により金利が低下する中、リスク管理を徹底し堅実に運用を行った結果、902,590 千円の資産運用収入を確保した。これは、帰属収入に対する 11.6%に当たり法人全体の収入に貢献している。一方、支出面では、物品等の調達競争見積り後、さらに価格交渉を行うとともに、用紙等全学共通で使用する物品については単価契約後も逐次単価を見直すなど経費節減に努めた。また、除却・遊休備品等についてリストを作成し学内の電子掲示板で情報を提供するなど、物品の効率的活用促進に努めた。

(2) 学生納付金の見直しと経費縮減

厳しい社会経済状況や歯学部志願者の減少する中、有為の人材確保と入学者に対する経済的支援を行なうため、平成 23 年度入学生から初年度学生納付金を 160 万円引き下げることを第 424 回理事会（平成 22 年 3 月開催）で決定した。なお、今後、教職員の給与・退職手当の改定などの経営努力により財政収支の改善に努める。

13 その他

(1) 第 1000 回記念教授会開催

平成 21 年 8 月 5 日に第 1000 回記念教授会（第 1 回教授会昭和 48 年 4 月 18 日開催）を開催した。この記念教授会には秋山治夫福岡県歯科医師会会長、宮口巖同窓会会長、中四良父兄後援会会長を始め名誉教授、学園役員の方にもご出席いただき、田中理事長から「口腔医学の学問体系に向けた今後の方針について」、また、秋山会長から「歯科医療の将来像」と題してそれぞれ講演等が行われた。

(2) 父兄後援会・学生共済会・同窓会及び社会福祉法人「学会会」との連携等

- ① 7 月から 8 月にかけて 17 地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から北村学長及び役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取した。また、5 月には父兄後援会の役員と学園理事長や本学教授等との懇談が実施され、その際、支部懇談会と併せ学生に対する就学環境の整備等についての意見交換を行った。
- ② 本学園理事長が、理事長を兼務する学生共済会は、3 月及び 5 月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、本学学生共済のために実施する諸事業について審議し、年間の事業

計画を決定した。また、新規事業の展開等学生に対する福祉・共済事業のあり方についても検討し、学生の就学支援の充実を図っている。

- ③ 同窓会とは、毎年5月に開催される同窓会定時総会懇親会や定例懇談会に理事長他役員が出席し、意見交換を行い、連携を図っている。なお、平成21年11月29日には福岡歯科大学同窓会創立30周年を記念して初めての同窓会主催によるオープンキャンパスが開催され、理事長、大学長他役職教員等が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学の概況説明を行った。

Ⅲ. 財務の概要

1 資金収支の状況

平成 21 年度資金収支計算書の収入額は 160 億 1,896 万 6 千円で、前年度からの繰越支払資金 9 億 4,263 万 6 千円を加えると、収入合計で 169 億 6,160 万 2 千円となっている。支出額は 157 億 758 万 7 千円となっており、差引 12 億 5,401 万 5 千円の次年度繰越支払資金となった。**(別表 12)**

2 消費収支の状況

平成 21 年度消費収支計算書の帰属収入合計額は 77 億 7,079 万 4 千円で、第 1 号基本金に本館・研究棟耐震改修工事費、節水型トイレ改修工事費及び本館 4 階実習室改修工事費等として 4 億 8,388 万 5 千円、本館・病院改修等資金としての第 2 号基本金引当資産に 6 億円、教育研究基金及び学術振興基金の第 3 号基本金引当資産に 5 億 3,762 万円を組入れたため、基本金組入額を差引いた消費収入の部合計額は 61 億 4,928 万 9 千円となっている。消費支出の部合計額は 55 億 3,078 万 2 千円で、差引 6 億 1,850 万 7 千円の当年度収入超過となり、前年度からの繰越消費収入超過額 41 億 3,192 万 4 千円と基本金取崩額 2,723 万 5 千円を加えると 47 億 7,766 万 6 千円の翌年度繰越消費収入超過額となった。**(別表 13)**

3 貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日（平成 21 年度末）現在の貸借対照表資産の部合計額は、557 億 9,926 万 9 千円で、負債の部合計額 41 億 8,020 万円を差引いた正味財産は、516 億 1,906 万 9 千円円となって、20 年度に比べ 22 億 4,001 万 1 千円の増となっている。**(別表 14)**

4 財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率（総資産に対する総負債の割合）は、平成 21 年度末で 7.5%となっており、全国平均 14.7%（平成 20 年度）をかなり下回っている。消費収支関係の人件費比率（帰属収入に対する人件費の割合）は、平成 21 年度で 43.8%となっており、全国平均 50.0%（平成 20 年度）を下回った。教育研究経費比率は、23.5%となっているが、教育研究用機器備品費等の設備関係支出を含めると帰属収入に対する割合は、30.2%となる。**(別表 15)**

5 資産運用収入

平成 21 年度の資産運用収入は 8 億 5,414 万 3 千円（施設設備利用料及び短期運用収入等を除く）で、運用可能資産(特定資産等)に対する利回りは約 2.04%であった。資産運用が難しい低金利状況の中で安全性を重視しつつ、少しでも利回りの良い運用に努力し相応の成果を上げている。

6 基本金組入れ

本館・病院改修等資金としての第 2 号基本金引当資産は、組入計画（年間 6 億円）どおり、平成 21 年度末で 82 億円となっている。また、平成 21 年度には福岡歯科大学における教育研究

の振興を図るため教育研究基金に5億円を組入れ、総額135億円とした。

7 財務情報公開

財務情報公開については、学園の利害関係者（在学生、保護者、教職員等）から請求があった場合の対応として、財務課に設置している財務書類及び事業報告書を閲覧に供しているほか、学園広報誌「ニューソフィア」及びインターネット上のホームページにも掲載するなど、一般に向け積極的に公開している。

8 経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較（5年間）及び帰属収入・消費支出構成比率表（別表16）、年度別推移表（別表17）を添付した。いずれも特に問題なく順調に推移している。

9 その他

平成21年度は、経常的経費に対する補助のほか、福岡歯科大学は文部科学省から施設整備費補助金716,974千円（本館・研究棟耐震改修工事:509,711千円、402実習室改修工事:141,381千円、本館・研究棟節水型トイレ改修工事:65,882千円）、研究設備費等補助金8,158千円（統合型実技教育補助設備:4,273千円、オールセラミック審美歯冠修復システム:3,885千円）、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に対して17,040千円、戦略的大学連携支援事業に対して17,226千円、大学教育・学生支援推進事業に対して11,000千円を獲得した。また、福岡医療短期大学は大学教育・学生支援推進事業に対して1,736千円、福岡県福祉・介護人材確保臨時対策事業に対して5,725千円の補助金を受け、社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業に対して10,866千円の受託事業費を受け入れた。

別表 1 平成 20～21 年度公募研究課題

番号	研究者名	所属・職	研究プロジェクトにおける研究課題
1	長 環	感染生物学・准教授	病原性真菌カンジダのクオラムセンシング分子の受容系、排出系の探索
2	上西 秀則	感染生物学・教授	DDS による低侵襲性薬物療法の開発— γ PGA を『創剤』の素材として
3	高木 康光	先端科学研究センター・准教授	酸化損傷ヌクレオチドを排除する酵素群の遺伝的解析
4	後藤 加寿子	冠橋義歯学・助教	咬合性外傷による顎骨吸収におけるケモカインの動態
5	大野 純	病態構造学・講師	ミニ移植法による口腔がんの抑制
6	都築 尊	有床義歯学・講師	過剰咬合モデル動物における歯根膜細胞外基質の動態
7	徳本 正憲	内科学・講師	腎不全におけるヒト過形成副甲状腺の細胞形質変化に対する DNA methylation の関与の検討
8	前田 大登	内科学・助教	エリスロポエチンの組織保護作用、抗酸化作用について
9	八尋 純子	機能構造学・助教	イオンエッチング免疫電顕法による生活習慣病時唾液分泌機構の解明
10	川口 稔	生体工学・助教	特異抗体標識化カーボンナノチューブによる体内動態解析用マーカーの開発
11	畠山 雄次	機能構造学・講師	歯周靭帯のホメオスタチスにおける Growth/Differentiation Factor-5 (GDF) の細胞外基質産生制御および分解酵素産生制御に対する検討
12	福島 晶絵	歯科保存学・助教	ヒト歯根膜細胞における SOCS の発現と機能解析
13	敦賀 英知	機能構造学・准教授	歯根膜オキシタラン線維の形成機構
14	永井 淳	歯周病学・准教授	口腔細菌のゲノム解析
15	橋本 憲一郎	口腔腫瘍学・助教	SCCA 発現亢進/抑制による口腔扁平上皮癌細胞の形質変化の解析
16	石橋 一成	生化学・准教授	ATP 受容体と Cl ⁻ イオンチャネル連携による唾液分泌・再吸収の統合制御系
17	鍛冶屋 浩	細胞生理学・講師	破骨細胞酸分泌輸送体の調節分子探索
18	岡本 富士雄	細胞生理学・講師	酸性環境下で活性化される破骨細胞の陰イオンチャネル同定と機能の解明

別表 2 平成 21 年度 科学研究費補助金決定状況

【福岡歯科大学】

(単位：千円)

区 分 種 類		平成 20 年 度						平成 21 年 度						前 年 度 比 較 増 減 (H21-H20)						
		申請 件数	申請額	決定 件数	決定額			申請 件数	申請額	決定 件数	決定額			申請 件数	申請額	決定 件数	決定額			
					直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計	
文 部 科 学 省	特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定領域研究	新規	4	15,808	0	0	0	0	1	7,800	0	0	0	0	3	8,008	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	若手研究(B)	新規	51	119,513	10	14,600	4,380	18,980	69	156,117	5	7,300	2,190	9,490	-18	-36,604	5	7,300	2,190	9,490
		継続	7	6,400	7	6,400	1,920	8,320	12	11,700	12	11,700	3,510	15,210	-5	-5,300	-5	-5,300	-1,590	-6,890
	小 計	新規	55	135,321	10	14,600	4,380	18,980	70	163,917	5	7,300	2,190	9,490	-15	-28,596	5	7,300	2,190	9,490
		継続	7	6,400	7	6,400	1,920	8,320	12	11,700	12	11,700	3,510	15,210	-5	-5,300	-5	-5,300	-1,590	-6,890
文科省合計		62	141,721	17	21,000	6,300	27,300	82	175,617	17	19,000	5,700	24,700	-20	-33,896	0	2,000	600	2,600	
日 本 学 術 振 興 会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	基盤研究(B)	新規	11	98,964	3	24,400	7,320	31,720	8	49,502	0	0	0	0	3	49,462	3	24,400	7,320	31,720
		継続	4	14,100	4	14,100	4,230	18,330	5	14,400	5	14,400	4,320	18,720	-1	-300	-1	-300	-90	-390
	基盤研究(C)	新規	50	105,277	7	9,400	2,820	12,220	51	108,777	13	22,900	6,870	29,770	-1	-3,500	-6	-13,500	-4,050	-17,550
		継続	12	14,000	12	14,000	4,200	18,200	11	10,500	11	10,500	3,150	13,650	1	3,500	1	3,500	1,050	4,550
	萌芽研究	新規	27	62,279	1	600	0	600	27	62,279	1	1,600	0	1,600	0	0	0	-1,000	0	-1,000
		継続	2	1,800	2	1,800	0	1,800	2	1,800	2	2,400	0	2,400	0	0	0	-600	0	-600
	若手研究 (スタートアップ)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		継続	1	1,350	1	1,350	405	1,755	2	2,380	2	2,380	714	3,094	-1	-1,030	-1	-1,030	-309	-1,339
	小 計	新規	88	266,520	11	34,400	10,140	44,540	86	220,558	14	24,500	6,870	31,370	2	45,962	-3	9,900	3,270	13,170
		継続	19	31,250	19	31,250	8,835	40,085	20	29,080	20	29,680	8,184	37,864	-1	2,170	-1	1,570	651	2,221
学振合計		107	297,770	30	65,650	18,975	84,625	106	249,638	34	54,180	15,054	69,234	1	48,132	-4	11,470	3,921	15,391	
合 計	新規	143	401,841	21	49,000	14,520	63,520	156	384,475	19	31,800	9,060	40,860	-13	17,366	2	17,200	5,460	22,660	
	継続	26	37,650	26	37,650	10,755	48,405	32	40,780	32	41,380	11,694	53,074	-6	-3,130	-6	-3,730	-939	-4,669	
	総合計	169	439,491	47	86,650	25,275	111,925	188	425,255	51	73,180	20,754	93,934	-19	14,236	-4	13,470	4,521	17,991	

別表3 平成21年度 科学研究費補助金決定状況

【福岡医療短期大学】

(単位：千円)

区 分 種 類		平成20年度						平成21年度						前年度比較増減(H21-H20)							
		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額			申請 件数	申請額	決定 件数	決定額			申請 件数	申請額	決定 件数	決定額				
					直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計		
文 部 科 学 省	特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(B)	新規	4	4,909	0	0	0	0	4	4,109	0	0	0	0	0	-800	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	新規	4	4,909	0	0	0	0	4	4,109	0	0	0	0	0	-800	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	文科省合計	4	4,909	0	0	0	0	4	4,109	0	0	0	0	0	-800	0	0	0	0	0	
日 本 学 術 振 興 会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	新規	10	11,522	0	0	0	0	9	11,088	0	0	0	0	-1	-434	0	0	0	0	0
		継続	2	1,700	2	1,700	510	2,210	2	1,300	2	1,300	360	1,660	0	-400	0	-400	-150	-550	0
	萌芽研究	新規	7	9,174	0	0	0	0	8	10,988	0	0	0	0	-1	-1,814	0	0	0	0	0
		継続	1	900	1	900	0	900	0	0	0	0	0	0	-1	-900	-1	-900	0	-900	0
	若手研究 (スタートアップ)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	新規	17	20,696	0	0	0	0	17	22,076	0	0	0	0	-2	-2,248	0	0	0	0	0
継続		3	2,600	3	2,600	510	3,110	2	1,300	2	1,300	360	1,660	-1	-1,300	-1	-1,300	-150	-1,450	0	
	学振合計	20	23,296	3	2,600	510	3,110	19	23,376	2	1,300	360	1,660	-3	-3,548	-1	-1,300	-150	-1,450	0	
合 計	新規	21	25,605	0	0	0	0	21	26,185	0	0	0	0	-2	-3,048	0	0	0	0	0	
	継続	3	2,600	3	2,600	510	3,110	2	1,300	2	1,300	360	1,660	-1	-1,300	-1	-1,300	-150	-1,450	0	
	総合計	24	28,205	3	2,600	510	3,110	23	27,485	2	1,300	360	1,660	-3	-4,348	-1	-1,300	-150	-1,450	0	

別表4 平成21年度研究業績（欧文）一覽

[福岡歯科大学]

1.総説(review含む)

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
機能生物化学	Properties and Applications of Lantibiotics, a Class of Bacteriocins Produced by Gram-positive Bacteria	<u>Nagao J</u>	Journal of Oral Biosciences	51	3	158-164	2009

2.原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Relationship between the β -galactosidase activity in saliva and parameters associated with oral malodor.	<u>Yoneda M</u> , Masuo Y, <u>Suzuki N</u> , Iwamoto T, <u>Hirofujii T</u>	J. Breath Res	4	1□		2010
総合歯科学 (口腔保健学)	Questionnaire survey on the people who are concerned about oral health -knowledge and consciousness of breath odor-	<u>Yoneda M</u> , <u>Suzuki N</u> , <u>Naito T</u> , S.M Macciedo, <u>Watanabe T</u> , Iwamoto T, Masuo Y, <u>Yamada K</u> , <u>Okada I</u> , Fujimoto A, <u>Hirofujii T</u>	J.Fukuoka Dent.Coll	35	2□	69-76□	2009
総合歯科学 (先端科学研究センター)	Tooth loss and intakes of nutrients and foods: a nationwide survey of Japanese dentists	Wakai K, Naito M, <u>Naito T</u> , Kojima M, Nakagaki H, Umemura O, Yokota M, Hanada N, Kawamura T	Community Dent Oral Epidemiol	38□	1□	43-49□	2009
口腔治療学	Genetic risk factors for periodontitis in a Japanese population	Kobayashi T, Nagata T, Murakami S, Takashiba S, Kurihara H, Izumi Y, Numabe Y, Watanabe H, Kataoka M, <u>Nagai A</u> , Hayashi J, Ohyama H, Okamatsu Y, Inagaki Y, Tai H, Yoshie H.	J Dent Res	88	12	1137-1141	2009
咬合修復学	Effect of Surface Preparation on the Failure Load of a Highly Filled Composite Bonded to the Polymer-Monomer Matrix of a Fiber-Reinforced Composite.	<u>Shimizu H</u> , <u>Tsue F</u> , Chen Zhao-Xun, <u>Takahashi Y</u>	J Prosthodont	18	3	255-258	2009
	An alternative procedure for fabricating a hollow interim obturator for a partial maxillectomy patient.	Shimizu H, Yoshida K, <u>Mori N</u> , <u>Takahashi Y</u>	J Prosthodont	18	3	276-278	2009
	Students'opinion of a predoctoral implant training program	<u>Kido H</u> , <u>Yamamoto K</u> , <u>Matsuura T</u> , <u>Shimizu H</u> , <u>Takahashi Y</u> , <u>Sato H</u> , <u>Matsuura M</u>	Journal of Dental Education	73	11	1279-1285	2009
成長発達歯学	Changes in lip and cheek pressure due to simulated maxillary dental arch expansion	Hasegawa A, <u>Hisanaga Y</u> , Sakai S, <u>Ishikawa H</u>	Orthodontic Waves□			2010	
成長発達歯学 (生体構造学)	Fibulin-5 contributes to microfibril assembly in human periodontal ligament cells	<u>Hisanaga Y</u> , Nakashima K, <u>Tsuruga E</u> , Nakatomi Y, <u>Hatakeyama Y</u> , <u>Ishikawa H</u> , <u>Sawa Y</u>	Acta Histochem Cytochem.	42	5□	151-157	2009
口腔・顎顔面外科学	Runt-related gene 2 is involved in the inhibition of matrix metalloproteinase-13 expression by roxithromycin in human gingival epithelial cell cultures.	Tabuchi S, Sakata T, Oyama T, Tokuda M, Tatsuyama S, Kajihara T, Nagaoka S, Beppu M, Sugihara K, <u>Ikebe T</u> , Shirasuna K	J Periodont Res	44	3	283-288	2009
診断・全身管理学	A quantitative analysis of sonographic images of the salivary gland: a comparison between sonographic and sialographic findings.	Chikui T, Shimizu M, Kawazu T, Okamura K, <u>Shiraishi T</u> , Yoshiura K	Ultrasound Med Biol	35	8	1257-1264	2009
診断・全身管理学 (医科歯科総合病院)	Effect of clenching on T2 and diffusion parameters of the masseter muscle.	Chikui T, <u>Shiraishi T</u> , <u>Ichihara T</u> , Kawazu T, Hatakenaka M, Kami Y, <u>Yuasa K</u> , Yoshiura K	Acta Radiol	51	1	58-63	2010
	A fast Look-Locker method for T1 mapping of the head and neck region	Chikui T, Tokumori K, <u>Zeze R</u> , <u>Shiraishi T</u> , <u>Ichihara T</u> , Hatakenaka M, Yoshura K	Oral Radiology	25		22-29	2009
診断・全身管理学 (口腔・顎顔面外科学) (生体構造学)	Cervical lymph nodes with or without metastases from oral squamous carcinoma: a correlation of MRI findings and histopathologic architecture.	<u>Fukunari F</u> , <u>Okamura K</u> , <u>Zeze R</u> , <u>Kagawa T</u> , <u>Hashimoto K</u> , <u>Yuasa K</u>	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod				2010

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合医学	Amiloride inhibits hydrogen peroxide-induced Ca2+ responses in human CNS pericytes.	Nakamura K, Kamouchi M, Kitazono T, Kuroda J, Shono Y, Hagiwara N, Ago T, <u>Ooboshi H</u> , Ibayashi S, Iida M	Microvasc Res	77	3	327-34	2009
	Midkine gene transfer protects against focal brain ischemia and augments neurogenesis.	Ishikawa E, <u>Ooboshi H</u> , Kumai Y, Takada J, Nakamura K, Ago T, Sugimori H, Kamouchi M, Kitazono T, Ibayashi S, Iida M	J Neurol Sci	285	1-2	78-84	2009
総合医学 (先端科学研究センター)	Pivotal role of cerebral interleukin-17-producing gammadeltaT cells in the delayed phase of ischemic brain injury.	Shichita T, Sugiyama Y, <u>Ooboshi H</u> , Sugimori H, Nakagawa R, Takada I, Iwaki T, Okada Y, Iida M, Cua DJ, Yoshimura A	Nat Med	15	8	946-50	2009
口腔保健学	Intensive smoking-cessation intervention in the dental setting.	<u>Hanioka T</u> , Ojima M, Tanaka H, Naito N, Hanazima N, Matsuse R	J Dent Res	89	1	66-70	2009
機能生物化学	Nukacin ISK-1, a bacteriostatic lantibiotic.	Asaduzzaman S.M, <u>Nagao J</u> , Iida H, Zendo T, Nakayama J, Sonomoto K	Antimicrob Agents Chemother.	53	8	3595-3598	2009
	Mapping and identification of the region and secondary structure required for the maturation of the nukacin ISK-1 prepeptide	<u>Nagao J</u> , Morinaga Y, Islam M.R, Asaduzzaman S.M, Aso Y, Nakayama J, Sonomoto K	Peptides	30	8	1412-20	2009
	Evaluation of essential and variable residues of nukacin ISK-1 by NNK scanning	Islam M.R, Shioya K, <u>Nagao J</u> , Nisie M, Jikuya H, Zendo T, Nakayama J, Sonomoto K	Mol Microbiol.	72	6	1438-1447	2009
	ATP-dependent leader peptide cleavage by NukT, a bifunctional ABC transporter, during lantibiotic biosynthesis	Nishie M, Shioya K, <u>Nagao J</u> , Jikuya H, Sonomoto K	J Biosci Bioeng.	108	6	460-464	2009
歯科医療工学	Effect of bisphosphonate immobilization of apatite coated titanium web on trabecular bone response	Furuya N, Hayakawa T, Yamanishi Y, <u>Fukushima T</u> , Yoshinari M, Sato M	Journal of Oral Tissue Engineering	7	2	73-80	2009
	Effects of added mannitol on the setting reaction and mechanical strength of apatite cement	Shimogoryo R, Eguro T, Kimura E, Maruta M, <u>Matsuya S</u> , Ishikawa K	Dent Mater J	28	5	627-633	2009
	Effect of temperature on crystallinity of carbonate apatite foam prepared from alpha-tricalcium phosphate by hydrothermal treatment	Takeuchi A, Munar ML, Wakae H, Maruta M, <u>Matsuya S</u> , Tsuru K, Ishikawa K	Biomed Mater Eng	19	2-3	205-211	2009
	Fabrication of freeform bone-filling calcium phosphate ceramics by gypsum 3D printing method	Lowmunkong R, Sohmura T, Suzuki Y, <u>Matsuya S</u> , Ishikawa K	J Biomed Mater Res B Appl Biomater	90	2	531-539	2009
	Fabrication of low-crystallinity hydroxyapatite foam based on the setting reaction of alpha-tricalcium phosphate foam	Karashima S, Takeuchi A, <u>Matsuya S</u> , Udoh K, Koyano K, Ishikawa K	J Biomed Mater Res A	88A	3	628-633	2009
	Fabrication of Biphasic Calcium Phosphate Foam Granular And Its Initial Evaluation Using Beagle Dogs	Ishikawa K, Shimogoryo R, Wakae H, Takeuchi A, <u>Matsuya S</u>	Key Engineering Materials	396-398		223-236	2009
歯科医療工学 (生体構造学)	Bone Response of DNA-chitosan-apatite Complexes	<u>Kawaguchi M</u> , Ohno J, <u>Iwahashi T</u> , <u>Fukushima T</u> , Hayakawa T, Doi Y	Journal of Oral Tissue Engineering	7	2	89-98	2009
歯科医療工学 (生体構造学) (福岡医療短期大学)	Mold fabrication and biological assessment of porous DNA-chitosan complexes.	<u>Fukushima T</u> , Ohno J, Hayakawa T, <u>Kawaguchi M</u> , Inoue Y, Takeda S, Toyoda M, Okahata Y	J Biomed Mater Res B Appl Biomater.	91	2	746-754	2009
生体構造学 (成長発達歯学)	Stretching stimulates fibulin-5 expression and controls microfibril bundles in human periodontal ligament cells	Nakashima K, <u>Tsuruga E</u> , <u>Hisanaga Y</u> , <u>Ishikawa H</u> , Sawa Y	J Periodontal Res	44	5	622-627	2009
生体構造学 (成長発達歯学) (先端科学研究センター)	Integrin alphavbeta3 regulates microfibril assembly in human periodontal ligament cells	<u>Tsuruga E</u> , Sato A, <u>Ueki T</u> , Nakashima K, Nakatomi Y, <u>Ishikawa H</u> , Yajima T, Sawa Y	Tissue Cell	41	2	85-89	2009
	Stretching stimulates fibulin-5 expression and controls microfibril bundles in human periodontal ligament cells	Nakashima K, <u>Tsuruga E</u> , <u>Hisanaga Y</u> , <u>Ishikawa H</u> , Sawa Y	J Periodontal Res	44	5	622-627	2009
細胞分子生物学 (先端科学研究センター)	Characteristics of ClC7 Cl- channels and their inhibition in mutant (G215R) associated with autosomal dominant osteopetrosis type II in native osteoclasts and hClcn7 gene-expressing cells.	<u>Kajiya H</u> , Okamoto F, Ohgi K, Nakao A, Fukushima H, <u>Okabe K</u>	Pflugers Arch	458	6	1049-1059	2009
細胞分子生物学 (口腔治療学) (口腔・顎顔面外科学)	PTHrP induces Notch signaling in periodontal ligament cells.	Nakao A, <u>Kajiya H</u> , Fukushima H, Fukushima A, Anan H, <u>Ozeki S</u> , <u>Okabe K</u>	J Dent Res	88	6	551-6	2009

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
先端科学研究センター	Age-related alterations in the expression of MTH2 in the hippocampus of the SAMP8 mouse with learning and memory deterioration.	Zheng JD, Hei AL, Zuo PP, Dong YL, Song XN, Takagi Y, Sekiguchi M, Cai JP	J Neurol Sci	287	1□	188-196□	2009
	NUDT5 hydrolyzes oxidized deoxyribonucleoside diphosphates with broad substrate specificity.	Kamiya H, Hori M, Arimori T, Sekiguchi M, Yamagata Y, Harashima H	DNA Repair	8	10□	1250-1254□	2009
	Structural and dynamic features of the MutT protein in the recognition of nucleotides with the mutagenic 8-oxoguanine base	Nakamura T, Meshitsuka S, Kitagawa S, Abe N, 中略, Sekiguchi M, Yamagata Y	J Biol Chem	285	1	444-452□	2010
	Proliferating cell nuclear antigen is protected from degradation by forming a complex with MutT Homolog2.	Yu Y, Cai JP, Tu B, Wu L, 中略, Sekiguchi M, Zhu WG	J Biol Chem	284	29□	19310-19320□	2009

3.症例報告

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
成長発達歯学	Management of the malposition tooth that was caused by dentigerous cyst associated with impacted supernumerary tooth by using an obturator	Shigeoka M, Yanagita K, Ozaki M, Motokawa W	Pediatric Dental Journal	19	2	240-246	2009
口腔・顎顔面外科学	Thyroglossal duct cyst occurring in the floor of the mouth: Report of 2 cases.	Nakayama S, Kimachi K, Nakayama K, Ikebe T, Ozeki S	J Oral Maxillofac Surg	67	12	2690-2693	2009

4.レポート

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
口腔・顎顔面外科学 (診断・全身管理学)	Assessment of the relationship between impacted mandibular third molars and inferior alveolar nerve with dental 3-dimensional computed tomography.	Nakayama K, Nonoyama M, Takaki Y, Kagawa T, Izumi K, Ozeki S, Ikebe T, Yuasa K	J Oral Maxillofac Surg	67	12	2587-91	2009

()内は共著者の所属講座等

[福岡医療短期大学]

1.総説(review含む)

学科名	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
歯科衛生学科	Natural products effective on the in vitro formation of calcium phosphate precipitates	Hidaka S, Okamoto S, Liu SY	J Trad Med	26	5□	201-209	2009

2.原著

歯科衛生学科	Mold fabrication and biological assessment of porous DNA-chitosan complexes.	Fukushima T, Ohno J, Hayakawa T, Kawaguchi M, Inoue Y, Takeda S, Toyoda M, Okahata Y	J Biomed Mater Res B Appl Biomater	91□	2□	746-754	2009
--------	--	--	------------------------------------	-----	----	---------	------

別表5 平成21年度海外研修派遣一覧表

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所 属	職 名	氏 名	目 的	派遣先		自	至
口 腔 保 健 学	講 師	晴佐久 悟	学会	マイアミ	(アメリカ)	H21.04.01	H21.04.06
細胞分子生物学	講 師	鍛冶屋 浩	学会	マイアミ	(アメリカ)	H21.04.01	H21.04.06
口 腔 治 療 学	助 教	福 島 晶 絵	学会	マイアミ	(アメリカ)	H21.04.01	H21.04.06
口腔・顎顔面外科学	助 教	片 山 知 子	学会	マイアミ	(アメリカ)	H21.04.01	H21.04.06
口 腔 治 療 学	助 教	茂 山 千英子	学会	マイアミ	(アメリカ)	H21.04.01	H21.04.06
咬 合 修 復 学	教 授	松 浦 正 朗	講演	ソウル	(韓国)	H21.04.09	H21.04.12
成長発達歯学	助 教	加 藤 喜 久	学会	釜山	(大韓民国)	H21.04.10	H21.04.12
成長発達歯学	医 員	兼 松 めぐみ	学会	釜山	(大韓民国)	H21.04.10	H21.04.12
成長発達歯学	助 教	久保田 智彦	学会	釜山	(大韓民国)	H21.04.10	H21.04.12
成長発達歯学	准教授	尾 崎 正 雄	打合せ	ソウル	(韓国)	H21.04.23	H21.04.27
成長発達歯学	助 教	葉 山 康 臣	打合せ	ソウル	(韓国)	H21.04.23	H21.04.27
咬 合 修 復 学	教 授	佐 藤 博 信	学会	ソウル	(韓国)	H21.04.24	H21.04.26
口腔・顎顔面外科学	講 師	松 永 興 昌	学会	ソウル	(韓国)	H21.04.24	H21.04.26
咬 合 修 復 学	大学院	吉 田 兼 義	学会	ソウル	(韓国)	H21.04.24	H21.04.26
咬 合 修 復 学	教 授	高 橋 裕	学会	ソウル	(韓国)	H21.04.24	H21.04.26
診断・全身管理学	教 授	湯 浅 賢 治	講演	高雄	(中国)	H21.04.24	H21.04.27
総 合 歯 科 学	助 教	谷 口 奈 央	学会	ドルトムント	(ドイツ)	H21.04.25	H21.05.02
総 合 歯 科 学	大学院	岩 元 知 之	学会	ドルトムント	(ドイツ)	H21.04.25	H21.05.02
総 合 歯 科 学	大学院	榊 尾 陽 介	学会	ドルトムント	(ドイツ)	H21.04.25	H21.05.02
総 合 歯 科 学	准教授	米 田 雅 裕	学会	ドルトムント	(ドイツ)	H21.04.25	H21.05.02
咬 合 修 復 学	助 教	徳 富 健太郎	学会	ドレスデン	(ドイツ)	H21.05.06	H21.05.11
咬 合 修 復 学	教 授	佐 藤 博 信	学会	ドレスデン	(ドイツ)	H21.05.06	H21.05.11
口腔・顎顔面外科学	講 師	泉 喜和子	学会	上海	(中国)	H21.05.23	H21.05.28
口腔・顎顔面外科学	助 教	多 田 剛 之	学会	上海	(中国)	H21.05.23	H21.05.28
咬 合 修 復 学	教 授	松 浦 正 朗	講演	北京	(中国)	H21.05.27	H21.05.31
咬 合 修 復 学	准教授	城 戸 寛 史	講演	北京	(中国)	H21.05.28	H21.05.31
機能生物化学	教 授	早 川 浩	学会	ウイスラー	(カナダ)	H21.05.30	H21.06.07
細胞分子生物学	准教授	日 高 真 純	学会	ウイスラー	(カナダ)	H21.05.30	H21.06.07
総 合 歯 科 学	講 師	内 藤 徹	学会	ストックホルム	(スウェーデン)	H21.06.02	H21.06.08
成長発達歯学	教 授	本 川 涉	学会	ミュンヘン	(ドイツ)	H21.06.15	H21.06.23
成長発達歯学	講 師	柳 田 憲 一	学会	ミュンヘン	(ドイツ)	H21.06.15	H21.06.23
成長発達歯学	医 員	杉 本 あゆみ	学会	ミュンヘン	(ドイツ)	H21.06.15	H21.06.23
総 合 医 学	教 授	大 星 博 明	講演	シカゴ・シアトル	(アメリカ)	H21.06.27	H21.07.05
診断・全身管理学	大学院	白 石 朋 子	学会	アムステルダム	(オランダ)	H21.06.28	H21.07.04
診断・全身管理学	教 授	湯 浅 賢 治	学会	アムステルダム	(オランダ)	H21.06.28	H21.07.03
診断・全身管理学	助 教	三 輪 邦 弘	学会	アムステルダム	(オランダ)	H21.06.28	H21.07.03
口腔・顎顔面外科学	教 授	大 関 悟	講演	ヤンゴン・マンダレー	(ミャンマー連邦国)	H21.07.19	H21.07.23
成長発達歯学	教 授	石 川 博 之	講演	ヤンゴン・マンダレー	(ミャンマー連邦国)	H21.07.19	H21.07.23

所 属	職 名	氏 名	目 的	派遣先		自	至
咬合修復学	准教授	清水博史	学会	ナーンタリ・トゥルク	(フィンランド)	H21.08.26	H21.09.03
咬合修復学	教授	高橋 裕	学会	ナーンタリ・トゥルク	(フィンランド)	H21.08.26	H21.09.03
咬合修復学	教授	松浦正朗	講演	天津市	(中国)	H21.09.16	H21.09.20
咬合修復学	教授	佐藤博信	視察	ハリファック・レキシントン・ボストン・ロサンゼルス	(カナダ)(アメリカ)	H21.09.18	H21.10.01
総合歯科学	准教授	内藤 徹	視察	ハリファック・レキシントン・ボストン・ロサンゼルス	(カナダ)(アメリカ)	H21.09.19	H21.10.01
総合歯科学	教授	廣藤卓雄	引率	慶熙	(韓国)	H21.10.04	H21.10.10
診断・全身管理学	准教授	真鍋庸三	学会	ゴールドコースト	(オーストラリア)	H21.10.10	H21.10.18
口腔治療学	教授	阿南 壽	引率	慶熙	(韓国)	H21.10.11	H21.10.17
成長発達歯学	教授	本川 涉	学会	全州市	(韓国)	H21.10.15	H21.10.18
口腔保健学	講師	晴佐久 悟	視察	バンクーバー・カナダシティ	(カナダ)(アメリカ)	H21.10.21	H21.10.29
咬合修復学	講師	山本勝己	学会	インドネシア	(バリ)	H21.11.19	H21.11.23
総合医学	教授	鴻江俊治	視察	ルヴァン サンティアゴ・デ・コンポステーラ	(ベルギー)(スペイン)	H21.12.06	H21.12.12
口腔・顎顔面外科学	講師	松永興昌	講演	ポルトガル	(リスボン)	H22.01.20	H22.01.24
成長発達歯学	講師	玉置幸雄	学会	シドニー	(オーストラリア)	H22.02.05	H22.02.10
成長発達歯学	助教	秦 雄一郎	学会	シドニー	(オーストラリア)	H22.02.05	H22.02.10
総合医学	教授	大星博明	講演	サンフランシスコ・シアトル	(アメリカ)	H22.02.20	H22.02.28
咬合修復学	助教	片渕三千綱	講演	フロリダ・オランダ	(アメリカ)	H22.03.02	H22.03.09
口腔・顎顔面外科学	講師	松永興昌	学会	フロリダ・オランダ	(アメリカ)	H22.03.03	H22.03.09
咬合修復学	准教授	城戸寛史	学会	オランダ・ニューヨーク	(アメリカ)	H22.03.03	H22.03.09
咬合修復学	大学院生	入江昭仁	学会	オランダ・ニューヨーク	(アメリカ)	H22.03.03	H22.03.09
咬合修復学	教授	佐藤博信	講演	オランダ・ニューヨーク	(アメリカ)	H22.03.03	H22.03.09
成長発達歯学	准教授	久永 豊	引率	上海	(中国)	H22.03.21	H22.03.28
咬合修復学	教授	松浦正朗	引率	上海	(中国)	H22.03.22	H22.03.28

⑨第3種海外研修派遣:1月以内視察、調査、研究、学会参加等

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡医療短期大学

所 属	職 名	氏 名	目 的	派遣先		自	至
保健福祉学科	教授	高瀬文広	学会	ソウル	(大韓民国)	H21.04.17	H21.04.19
歯科衛生学科	准教授	松尾忠行	引率	ロサンゼルス	(アメリカ)	H21.10.28	H21.11.07

⑨第3種海外研修派遣:1月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表6 平成21年度地域貢献一覧表

実施事業	内 容
歯の無料相談	「歯の衛生週間」にちなみ、「歯の無料相談」を毎年開催している。平成21年度は6月7日に西新エルモールプラリバで開催、101名の相談者が来場した。
出前講座	市内公民館、小学校などを対象に、病院診療科の教授、准教授等が「歯の話、お口の話、健康の話」をテーマに、福岡市内21箇所の出前講義（お話し）を行った。
運動場、テニスコート、体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、ラグビー場、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月1回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
作業療法士及び理学療法士の講師派遣	田村校区の依頼で介護老人保健施設の作業療法士及び理学療法士等が転倒骨折予防、腰痛・膝痛予防のための体操指導や講演を行っている。
学園祭での交流	田村校区、四箇田団地の子供会で組織するダンスチーム、保育園で指導している地域の太鼓演奏や隣接の中学校吹奏楽部が学園祭にゲスト出演し、イベント会場を盛り上げた。また地域団体が学園祭バザーに参加した。
福岡医療短期大学教員ボランティア活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的に開催されている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が毎月担当を決めて参加し、情報提供を行っている。平成21年度は計11回参加した。

別表 7 平成 21 年度公開講座一覧表

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
平成 21 年度福岡歯科大学臨床セミナー（公開講座）	平成 21 年 4 月から 22 年 3 月まで （福岡歯科大学本館 6 階 602 講義室他）	医療関係者を対象に通算 25 回実施した。 参加者延べ 1,569 名（臨床研修歯科医を含む）
福岡歯科大学公開講座	平成 21 年 10 月 18 日 （福岡県歯科医師会館 5 階視聴覚室）	「お口とからだの健康管理からはじめる長寿～歯周病から脳卒中まで～」 ①「歯がたくさん残った人ほど長寿か？～全国歯科医師の健康調査からわかったこと～」、②「口腔内科～お口の病気とからだの病気～」、③「脳卒中による言語・嚥下の障害」 参加者 73 名
「健康まるごと福岡歯科学園」	平成 21 年 10 月 24 日～25 日 （福岡歯科学園）	1. 講演会「新型インフルエンザとその対策」 2. 「からだの科学展」 3. 医科ミニ講座・歯科無料相談 4. 介護施設見学・介護無料相談 5. 短大企画「ご用心！お口と介護」 各イベント参加者合計 1,602 人
平成 21 年度地下鉄七隈線沿線 3 大学合同シンポジウム	平成 21 年 11 月 7 日 （中村学園大学西 1 号館 10 階大講義室）	メインテーマ「がん予防のエッセンスーがんにならないための生活習慣ー」 第一部講演、第二部公開討論（参加者からの質問に回答する形式）。 本学、福岡大学、中村学園大学合同開催。参加者 197 名
第 1 回「ふくおか『まち探訪』健康ウォークスタンプラリー2009」	平成 21 年 11 月 14 日～15 日 （唐人町商店街）	協賛団体として参加 「お口と体の無料健康相談・血流量ストレス度無料測定」 参加者 225 名
福岡歯科大学シンポジウム	平成 21 年 11 月 30 日、12 月 7 日 （福岡歯科大学本館 5 階 504 講義室、本館 6 階 601 講義室）	文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、先端科学研究センターとしての今後の研究課題について共同研究を行っている国内外の研究者によるシンポジウムを行った。
福岡歯科大学学会総会特別講演	平成 21 年 12 月 23 日 （福岡県歯科医師会館）	・シンポジウム「全身を診すえる歯科治療…口腔医学を目指して」 4 名のシンポジストによる講演 参加者 304 名

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
戦略的大学連携支援事業平成21年度口腔医学シンポジウム	平成22年1月9日 (福岡県歯科医師会館 5階視聴覚室)	テーマ「口腔と全身の健康」ー口腔医学の礎ー 5名の講演後、講演者による討論。 参加者123名
西部地区五大学連携公開シンポジウム	平成22年3月17日 (西南学院大学 西南コミュニティセンター)	第1部 基調講演「これからの大学と地域連携」、第2部 各大学から地域貢献に関する取り組み事例発表、第3部 シンポジウム(シンポジスト: 行政・民間企業・留学生・一般市民・大学) 参加者147名
第1回ふくおか教育フォーラム	平成22年3月27日 (福岡大学 17号館1711教室)	基調講演「三大学連携の意義と展望ー高等教育の現場からー」(福岡歯科大学長)、特別講演「大学改革の課題」(文部科学省高等教育局長) 参加者170名
大学院特別講義	平成21年4月21日 (福岡歯科大学 本館8階801講義室他) 他、全5回	「An overview of my research on bone formation from cartilage」他 上海交通大学、アバディーン大学、ベルン大学、ノースキャロライナ大学教授らによる講義が行われた。
福岡医療短期大学公開講座	平成21年9月27日 (福岡医療短期大学 307教室)	要介護者の生活支援ー要介護者を支える介護現場での連携についてー 参加者129名
福岡医療短期大学口腔機能向上スキルアップ記念フォーラム 第2回“口腔介護のマネジメント”	平成21年10月4日 (福岡医療短期大学 307教室)	「介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能スキルアップ講座」が文部科学省委託事業に採択されたことを記念して開催。 参加者90名
福岡医療短期大学口腔機能向上スキルアップ記念フォーラム 第3回“口腔ケアの展望と課題”	平成22年3月14日 (福岡医療短期大学 307教室)	平成21年度スキルアップ講座の受講修了者45名、平成22年度受講予定者35名の他、歯科医師、介護職員等64名が参加。 フォーラム終了後、平成21年度修了証授与式を行なった。 参加者144名

別表8 平成21年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修名	主催	場所	参加者
企画課	5/15	気配り上手は仕事上手	NCB経営情報サービス	福岡	吉原
	11/12	係長・主任者能力向上セミナー	NCB経営情報サービス	福岡	田島
	2/9	実践!「A4」1枚アンケートで利益を5倍にする方法	NCB経営情報サービス	福岡	山口
総務課	5/14	部下を持つ人のリーダーシップと指導力強化セミナー	NCB経営情報サービス	福岡	落合
	6/12	報連相 レベルアップ8つの鉄則	NCB経営情報サービス	福岡	麻生
	6/19	効率アップ仕事の段取り術	NCB経営情報サービス	福岡	木下
	7/21	教員評価・人事評価の進化と運用	地域科学研究会	東京	赤坂
	8/3・8/4	有機溶剤作業主任者技能講習	社団法人 福岡県労働基準協会連合会	福岡	谷
	8/21	給与実務研修会(人事院勧告)	財団法人 日本人事行政研究所	東京	赤坂
	9/8	企業におけるパワハラ防止セミナー	21世紀職業財団	福岡	藤木
	10/16	給与実務研修会(俸給関係)	財団法人 日本人事行政研究所	東京	赤坂
	11/11	人前で話す・発表する技術	NCB経営情報サービス	福岡	石田
	1/22	電話応対向上コース	NCB経営情報サービス	福岡	上月
	1/27~28	私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・共済事業団	大阪	石田
財務課	7/31~8/1	第7回大学人コミュニケーション養成セミナー	高等教育問題研究会「大学人力」養成チーム	東京	松添
	9/10~9/11	防火・防災管理新規講習		福岡	石橋
	10/7~10/9	大学経理部課長担当者研修会	私立大学協会	神戸	石橋
	10/27	学校法人の源泉徴収事務セミナー	アルカディア市ヶ谷	東京	八尋
	11/19	消費税実務の基本から申告書作成までの実務	NCB経営情報サービス	福岡	豊福
施設課	8/24~8/26	第2種消防設備点検資格者講習会	福岡市民防災センター	福岡	大神
	9/8~9/9	大学等における省エネルギー対策に関する研修会		福岡	大神
	11/5	電気主任技術者実務講習会	福岡県中小企業振興センター	福岡	大神
	11/5	電気主任技術者実務講習会	福岡県中小企業振興センター	福岡	森永
	11/26	第一種電気工事士定期講習会		福岡	森永
学務課	5/14	部下を持つ人のリーダーシップと指導力強化セミナー	NCB経営情報サービス	福岡	亀川
	9/10~9/11	私立大学協会九州支部事務研修会	私立大学協会	福岡	柳
	10/13~10/15	大学教務部課長担当者研修会		浜松	灘吉
	12/22	入学前・初年次・リメディアル教育の最前線	地域科学研究会	東京	大村
情報図書館課	6/15・16	ビジネスユーザーのためのWindows Vista	富士通ラーニングメディア	福岡	山口
	7/31~9/26	司書講習	別府大学	大分	豊田
	8/3	VSプログラミング入門講習会	富士通ラーニングメディア	福岡	山口
	8/20・8/21	ネットワーク基礎講習会	富士通ラーニングメディア	福岡	山口
	12/13~16	NetScreen/SSG導入と運用		東京	亀井
病院事務課	4/2~4/3	新入社員合宿研修	NCB経営情報サービス	福岡	石橋
	6/16	クレーム電話初期対応コース	NCB経営情報サービス	福岡	田村
	9/14	平成21年度 接遇研修	中村学園大学	福岡	宗
	11/20	実践的・クレーム対応セミナー	NCB経営情報サービス	福岡	白石
	2/16	女性社員を部下に持つ管理者の指導力・コミュニケーション力	NCB経営情報サービス	福岡	松村
短大事務課	6/19	効率アップ仕事の段取り術	NCB経営情報サービス	福岡	松添
	2/9	実践!「A4」1枚アンケートで利益を5倍にする方法	NCB経営情報サービス	福岡	牛之濱

別表9 平成21年度 病院職員教育研修（講習会）実施一覧表

開催日	場所	対象	講師	タイトル
平成21年4月9日	602教室	臨床研修 病院教職員	湯浅 賢治	HIS研修
平成21年4月9日	501教室	病院教職員	湯浅 賢治	HIS研修
平成21年5月22日	手術室	看護師	アムコ	電気メスについて
平成21年9月16日	病院事務課	医師	NEC	医科レセプト伝送に伴うHIS説明会
平成21年9月30日	901教室	病院教職員	泉 利雄 小島 寛 小田由香里 外尾 典子 青木 紘子	医療安全等に関する講習会
平成22年2月26日	701教室	看護師	村上華林堂看護師長 江口 敦美	緩和ケアに関すること
平成22年3月24日	901教室	病院教職員	常岡由美子 草場 裕美 小島 寛	医療安全等に関する講習会

別表10 平成21年度 戦略的大学連携支援事業SD研修参加者

所属	受講日	研修名	主催	場所	参加者
総務課	11/20-21	戦略的大学連携支援事業SD研修	神奈川歯科大学	神奈川	赤坂
財務課	11/20-21	戦略的大学連携支援事業SD研修	神奈川歯科大学	神奈川	加藤
学務課	11/20-21	戦略的大学連携支援事業SD研修	神奈川歯科大学	神奈川	灘吉

別表11 平成21年度 西部地区五大学連携懇話会研修参加者

所属	受講日	研修名	主催	参加者
企画課	5/28	ファシリテーション基礎研修	九州大学	榑崎
	9/14	平成21年度 接遇研修	中村学園大学	吉原
総務課	5/28	ファシリテーション基礎研修	九州大学	藤木
	10/6	法制執務研修	西南学院大学	赤坂
	12/10	第4回教育改革研究会	九州大学	柴尾
	12/25	FD活動における立命館大学の教職協働	九州大学	赤坂
財務課	10/6	法制執務研修	西南学院大学	松添
	10/6	法制執務研修	西南学院大学	加藤
学務課	5/28	ファシリテーション基礎研修	九州大学	柳
	9/14	平成21年度 接遇研修	中村学園大学	大村
	10/6	法制執務研修	西南学院大学	灘吉
	12/10	第4回教育改革研究会	九州大学	柳
病院事務課	9/14	平成21年度 接遇研修	中村学園大学	宗
短大事務課	10/6	法制執務研修	西南学院大学	牛之濱

別表 1 2 資金収支総括表

(単位:千円)

科 目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,667,840	3,736,272	3,607,370	3,574,023	3,562,538
	手 数 料 収 入	39,180	33,032	28,836	22,885	21,209
	寄 附 金 収 入	27,453	32,050	27,510	22,873	23,324
	補 助 金 収 入	444,378	667,426	505,260	517,193	1,220,852
	資 産 運 用 収 入	702,086	769,747	840,554	831,003	902,590
	資 産 売 却 収 入	0	0	121,459	523,150	537,770
	事 業 収 入	1,678,206	1,600,062	1,698,451	1,711,305	1,755,489
	雑 収 入	246,645	242,213	182,637	151,334	272,742
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	834,183	809,855	772,975	771,411	695,539
	そ の 他 の 収 入	478,026	5,786,081	2,335,922	730,415	8,960,965
	資金収入調整勘定	△ 1,254,163	△ 1,463,154	△ 1,235,117	△ 1,084,721	△ 1,934,052
	小 計	6,863,834	12,213,584	8,885,857	7,770,871	16,018,966
	前年度繰越支払資金	1,832,018	2,107,356	1,732,395	1,464,297	942,636
	合 計	8,695,852	14,320,940	10,618,252	9,235,168	16,961,602
支出の部	人 件 費 支 出	3,439,475	3,467,840	3,453,389	3,462,344	3,548,121
	教育研究経費支出	1,099,979	1,125,224	1,376,225	1,182,347	1,385,720
	管 理 経 費 支 出	201,552	217,261	218,215	222,030	218,168
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	14,970	39,360	37,046	344,049	965,748
	設備関係支出	174,054	486,107	146,440	204,787	519,979
	資産運用支出	1,796,243	7,308,237	3,713,746	2,843,919	9,722,997
	そ の 他 の 支 出	395,181	539,400	607,144	426,273	406,757
	資金支出調整勘定	△ 532,958	△ 594,884	△ 398,250	△ 393,217	△ 1,059,903
	小 計	6,588,496	12,588,545	9,153,955	8,292,532	15,707,587
	次年度繰越支払資金	2,107,356	1,732,395	1,464,297	942,636	1,254,015
	合 計	8,695,852	14,320,940	10,618,252	9,235,168	16,961,602

別表 1 3 消費収支総括表

(単位:千円)

科 目		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
消費収入の部	学生生徒等納付金(ア)	3,667,840	3,736,272	3,607,370	3,574,023	3,562,538
	手数料	39,180	33,032	28,836	22,885	21,209
	寄附金(イ)	65,768	52,460	46,588	47,616	35,374
	補助金(ウ)	444,378	667,426	505,260	517,193	1,220,852
	資産運用収入	702,086	769,747	840,554	831,003	902,590
	資産売却差額(エ)	0	0	0	0	0
	うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
	事業収入	1,678,206	1,600,062	1,698,451	1,711,305	1,755,489
	雑収入	246,645	242,890	182,636	151,334	272,742
	合 計 (オ)	6,844,103	7,101,889	6,909,695	6,855,359	7,770,794
基本	基本金組入額(カ)	△ 1,665,218	△ 1,411,715	△ 1,993,206	△ 1,470,377	△ 1,621,505
	(第1号基本金組入額)	△ 73,718	△ 14,805	△ 72,126	△ 347,227	△ 483,885
	(第2号基本金組入額)	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000
	(第3号基本金組入額)	△ 991,500	△ 796,910	△ 1,321,080	△ 523,150	△ 537,620
	(第4号基本金組入額)	0	0	0	0	0
消費収入(オ-カ)(キ)		5,178,885	5,690,174	4,916,489	5,384,982	6,149,289
消費支出の部	人件費(ク)	3,316,909	3,333,013	3,582,581	3,382,947	3,400,470
	教育研究経費(ケ)	1,624,249	1,605,584	1,861,818	1,639,090	1,828,245
	うち、減価償却	513,746	482,334	481,154	456,535	442,618
	管理経費(コ)	234,707	249,201	260,428	250,208	239,164
	うち、減価償却	32,609	32,113	30,900	28,581	20,205
	借入金等利息(サ)	0	0	0	0	0
	資産処分差額(シ)	7,089	19,650	22,521	9,442	62,843
	うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
	うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	0	1,746	0	731	60
消費支出合計(セ)	5,182,954	5,209,194	5,727,347	5,282,417	5,530,782	
当年度消費収入超過額(キ-セ) (又は△当年度消費支出超過額)	△ 4,069	480,980	△ 810,858	102,565	618,507	
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)	4,183,498	4,179,556	4,674,411	3,886,143	4,131,924	
(何) 年度消費支出準備金繰入額	0	0	0	0	0	
(何) 年度消費支出準備金取崩額	0	0	0	0	0	
基本金取崩額	127	13,875	22,590	143,216	27,235	
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)	4,179,556	4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666	
帰属収支差額(オ)-(セ)	1,661,149	1,892,695	1,182,348	1,572,942	2,240,012	

別表 1 4 貸借対照表

(単位:千円)

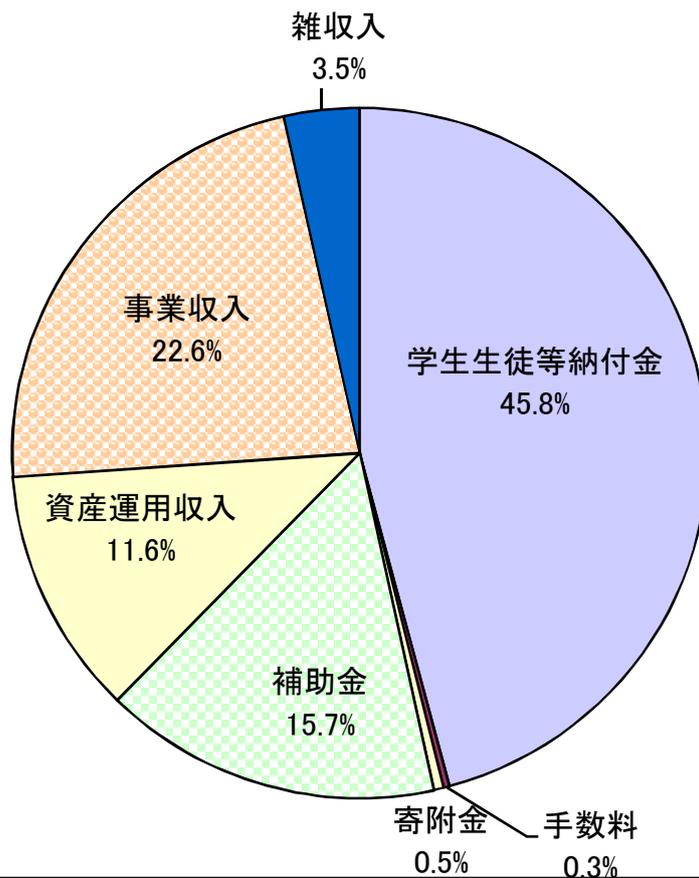
資 産 の 部						負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部					
科 目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	科 目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
固 定 資 産 (a)	46,127,500	48,117,492	49,666,351	51,568,325	53,305,719	負 債 (e)	3,979,800	3,916,337	3,806,792	3,697,601	4,180,200
有 形 固 定 資 産	10,727,030	10,738,778	10,395,566	10,474,492	11,431,306	固 定 負 債 (f)	2,460,235	2,325,408	2,454,600	2,375,203	2,250,043
う ち 、 土 地	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	う ち 、 長 期 借 入 金	0	0	0	0	0
う ち 、 建 物	4,798,380	4,582,714	4,394,721	4,267,053	5,238,794	う ち 、 学 校 債	0	0	0	0	0
う ち 、 構 築 物	259,065	257,714	240,390	223,298	209,738	う ち 、 退 職 給 与 引 当 金	2,457,704	2,322,877	2,452,069	2,372,672	2,225,021
う ち 、 教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,420,249	1,608,269	1,431,276	1,352,565	1,581,296	流 動 負 債 (g)	1,519,565	1,590,929	1,352,192	1,322,398	1,930,157
そ の 他 の 固 定 資 産 (l)	35,400,470	37,378,714	39,270,785	41,093,833	41,874,413	う ち 、 短 期 借 入 金	0	0	0	0	0
う ち 、 収 益 事 業 元 入 金	0	0	0	0	0	う ち 、 前 受 金 (h)	834,183	809,855	772,975	771,411	712,739
う ち 、 減 価 償 却 引 当 特 定 資 産	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	基 本 金 (i)	40,551,518	41,949,358	43,919,974	45,247,134	46,841,403
流 動 資 産 (b)	2,583,374	2,422,614	1,946,558	1,508,334	2,493,550	ア 第 1 号 基 本 金	20,610,538	20,611,468	20,661,004	20,865,014	21,321,663
う ち 、 現 金 ・ 預 金 (c)	2,107,356	1,732,395	1,464,298	942,636	1,254,015	イ 第 2 号 基 本 金	5,800,000	6,400,000	7,000,000	7,600,000	8,200,000
う ち 、 有 価 証 券	0	0	0	198,680	0	ウ 第 3 号 基 本 金	13,720,980	14,517,890	15,838,970	16,362,120	16,899,740
そ の 他	476,018	690,219	482,260	367,018	1,239,535	エ 第 4 号 基 本 金	420,000	420,000	420,000	420,000	420,000
合 計 (d)	48,710,874	50,540,106	51,612,909	53,076,659	55,799,269	消 費 収 支 差 額 (j)	4,179,556	4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666
						(何) 年 度 消 費 支 出 準 備 金	0	0	0	0	0
						翌 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額 又 は △ 翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	4,179,556	4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666
						合 計 (e) + (i) + (j)	48,710,874	50,540,106	51,612,909	53,076,659	55,799,269
						減 価 償 却 額 の 累 積 額 の 合 計 額	10,029,460	10,050,531	10,382,773	10,512,547	10,465,871
						基 本 金 未 組 入 額 (k)	51,530	83,419	22,913	27,602	496,380

別表 15 財務比率表

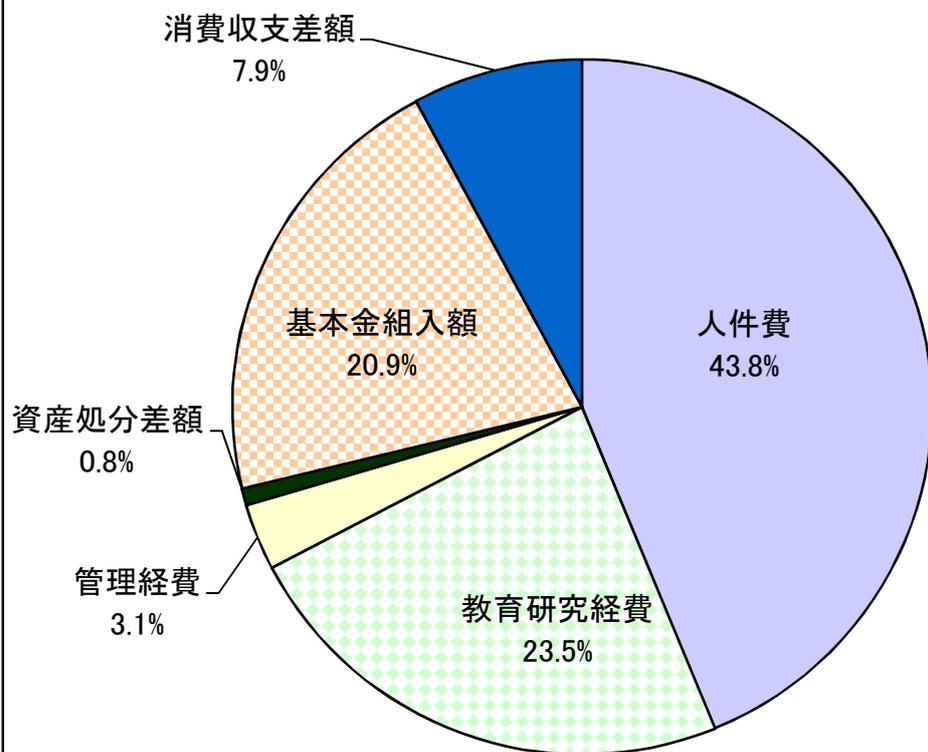
分類	比 率	算 式 (×100)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額 (j)}}{\text{総 資 金 (e) + (i) + (j)}}$	8.6%	9.2%	7.5%	7.8%	8.6%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金 (i)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	99.9%	99.8%	99.9%	99.9%	99.0%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産 (a)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	103.1%	103.2%	103.9%	104.4%	103.3%
	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産 (l)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	72.7%	74.0%	76.1%	77.4%	75.0%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産 (b)}}{\text{流 動 負 債 (g)}}$	170.0%	152.3%	144.0%	114.1%	129.2%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金 (c)}}{\text{前 受 金 (h)}}$	252.6%	213.9%	189.4%	122.2%	175.9%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	8.2%	7.7%	7.4%	7.0%	7.5%
	負債率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	8.9%	8.4%	8.0%	7.5%	8.1%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	110.2%	110.9%	108.8%	109.1%	109.0%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費 (ク)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	48.5%	46.9%	51.8%	49.3%	43.8%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費 (ケ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	23.7%	22.6%	26.9%	23.9%	23.5%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費 (コ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	3.4%	3.5%	3.8%	3.6%	3.1%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	75.7%	73.3%	82.9%	77.1%	71.2%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}$	141.3%	139.4%	158.8%	147.8%	155.2%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	53.6%	52.6%	52.2%	52.1%	45.8%
	寄附金比率	$\frac{\text{寄 附 金 (イ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	1.0%	0.7%	0.7%	0.7%	0.5%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金 (ウ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	6.5%	9.4%	7.3%	7.5%	15.7%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額 (力)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	24.3%	19.9%	28.8%	21.4%	20.9%

別表 1 6

21年度帰属収入構成比率

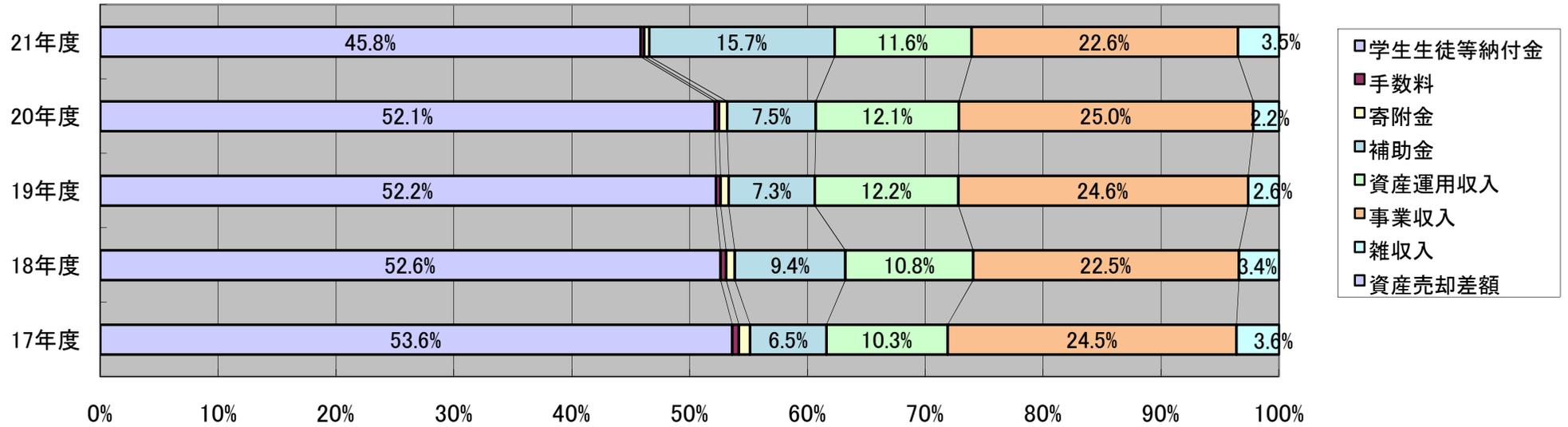


21年度消費支出他構成比率
(帰属収入に対する割合)



別表 17

帰属収入科目構成比率年度別推移



消費支出科目等の帰属収入割合年度別推移

